

第4節 光構内の立会調査

1 教育学部附属光小学校屋外施設設置に伴う立会調査

調査地区 光構内

調査期間 平成3年11月22日

調査方法 工事施工時における立会調査

調査面積 約18m²

調査結果 調査地域は光構内の西半部を占める小学校運動場の西縁部に位置する。調査は比較的掘削規模の大きい二カ所について行った。

第1地点の基本層序は上位から、第1層：表土（構内造成による埋め土）、第2層：暗褐色細砂（10YR3/4）、第3層：褐色砂質土（10YR4/6）、第4層：黄暗褐色細砂（10YR7/8）である。第2層、第3層は過去に検出されている古墳時代の遺物包含層で、今回の調査では第3層からの出土遺物はなかったが、第2層から土師器若干が出土した。第2層は層厚約20cm前後で、現地表面から約20cm下位で検出される地域があり、今後の工事などによる掘削の際には注意を要する。第2地点では層厚約50cmの表土下に層厚約30cmの明黄褐色円礫混じり粗砂（10YR6/8）が堆積しており、土師器若干、石錘1点が出土した。

出土遺物（Fig.24）

大形の石錘で、転円礫を素材とし、長軸両端部に正裏両面からの敲打によって抉りを施す。最大長10.6cm、最大幅7.3cm、最大厚1.75cm、抉りの深さ0.5cm、重量245.5g。緑色片岩製。（河村）

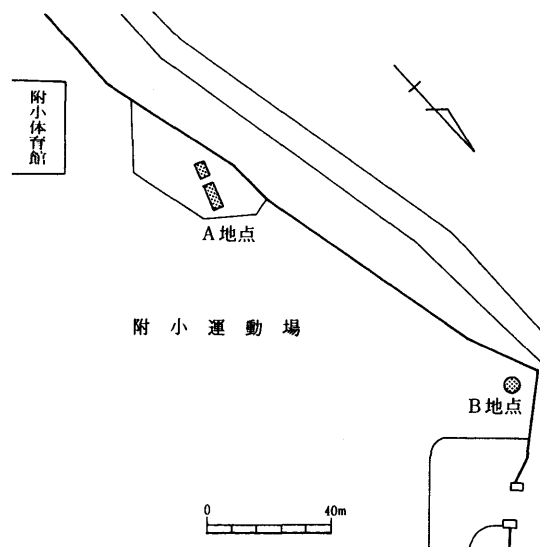


Fig. 23 調査区位置図

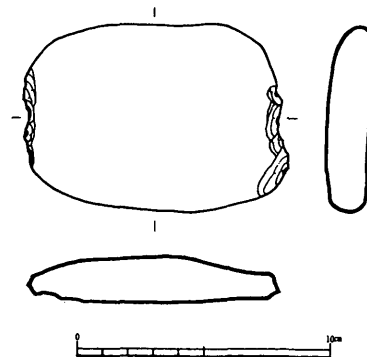


Fig. 24 出土遺物実測図

2 教育学部附属光中学校バックネット新設に伴う立会調査

調査地区 光構内

調査期間 平成4年2月21日

調査方法 工事施工時における立会調査

調査面積 約0.5m²

調査結果 運動場南側の松の木が台風被害で折れ、校地周囲を巡る自然歩道にボールが飛来するようになったため、新たにバックネットを新設することになった。バックネットは2本の支柱で支え、支柱埋設のため現地表面から2mまでを掘削した。北側（校舎側）掘削は4層の土の堆積がみられた。現地表面から47cmまでの第1層は運動場造成時の埋め土で、真砂・炭ガラ互層であった。85cmまでの第2層は遺物を少量含むオリーブ褐色砂礫土層、123cmまでの第3層は明黄褐色粗砂層、以下の第4層は珪化木を含む黄褐色礎砂層であった。また、南側（岬側）の掘削は、3層の土の堆積がみられた。第1層の運動場造成土は40cmまで、北側掘削の第2層を欠如し、110cmまでが明黄褐色粗砂層、以下が珪化木を含む黄褐色礎砂層であった。北側掘削の第2層で土師器の台付坏の底部が1点出土したのみで、遺構は検出しなかった。

出土遺物（Fig.26）

土師器の台付坏の底部。底部は厚い台形を呈する。摩耗の著しい部分が多いが、底部外面はナデ、底面は回転糸切りが確認できる。上部には坏部が剥離した痕が見られる。底径は（4.8）cm。胎土は、雲母及び直径1～3mmの砂を多く含む。焼成は良好で、外面はにぶい橙色（7.5YR7/3）、内面はにぶい橙色（7.5YR6/4）。11世紀代のものと考えられる。

（古賀）

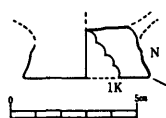


Fig. 26 出土遺物実測図

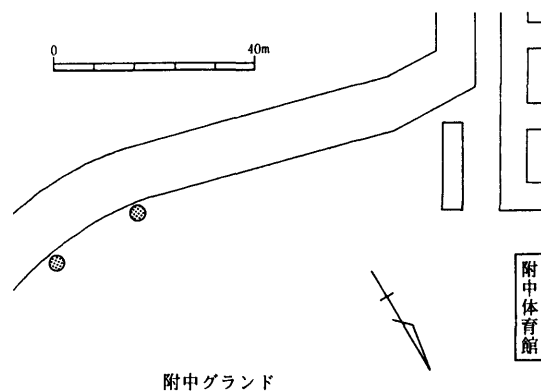


Fig. 25 調査区位置図